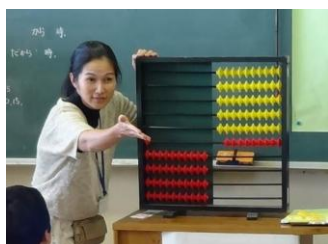


はにい

かぞえましょう

平成25年12月24日



「1! 2! 3! 4!・・・」

1年生から6年生まで、5人でいっしょに学んでいます。

「57! 58! 59!」ここで先生は止めて、一人に手を差し出しました。

「60!」正解。続けてもう一人に手を差し出し、

「61!」答えられました。

そのまま全員で続けて、「62! 63! 64!・・・」

先生は、一人ひとりの目標を把握しており、その子に手を差し出します。十の位が上がったところが苦手な子。その次の61が苦手な子。

そしてその子が困ればみんなで助けるように、教師は一人ひとりに視線を送ります。



「あのさー」おっと、一人が関係ない話をしようとしてしました。

先生は、サッと手のひらを出して、その言葉をさえぎりました。

音に敏感で集中できなくなる特性の子がいるので、教師の指示もそこに気を配り、算数以外の指示は、教師は声を出さず、手振りで促します。全員をそのように指導してきました。



さて、次は5の塊りで数えていきます。

「5! 10! 15! 20!」

今度は、答える子を手で差し示すのではなく、教師がその子と視線を合わせて発言を促します。「25!」言えました。

これは、人と視線を合わせるのが苦手な子、あるいは以前は視線を合わせることができなかった子のために考えた方法です。その一人は、この日々の繰り返りで、かなり視線を合わせられるようになってきました。



「1と『9』で10!」パン!

「2と『8』で10!」パン!

手拍子と発声で、10の塊りを答えさせます。『 』の数は発言を促された子どもが言っています。

先生も楽しそうに一緒に手をたたきます。

これは、耳で理解するのが得意な子がいるので考えた方法なのだそうです。

先生ははっきりした動作で、学びに集中させていました。

「さあ、いっしょにかぞえましょう。」